

(様式 1-3)

## 二本松市定住緊急支援事業計画に基づく事業等個票

平成 25 年 5 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	1	事業名	二本松市公園遊具更新事業	事業番号	A-1-1
交付団体	市	事業実施主体	二本松市		
総交付対象事業費	105,305 (千円)	全体事業費	105,305 (千円)		
事業概要					
○基幹事業					
市内の子供たちの屋外での運動機会の確保のため、各地域にある又は近接する市内の公園の中で最も利用頻度が高く、一定の規模がありより多くの子供たちが利用できる公園の遊具を更新する。					
安達ヶ原ふるさと村公園等 6 公園の公園内にある既存遊具の更新					
・安達ヶ原ふるさと村公園内にある既存の複合遊具 2 基、ブランコ 5 基、スベリ台 1 基、ジャングルジム 1 基、スプリング遊具 2 基、ターザンロープ 1 基、シーソー 2 基を更新する。					
・霞ヶ城公園内にある既存のブランコ 1 基、回転遊具 1 基、シーソー 1 基、チェーンネット 1 基、滑り台付リングジャングル (ジャングルジム含む) 1 基、滑り台 1 基、回転ジャングルジム 1 基、スプリング遊具 1 基を更新する。					
・若宮公園内にある既存のブランコ 1 基、鋼製コンビネーション 1 基、滑り台 1 基、グローブジャングル 1 基を更新する。					
・鏡ヶ池公園内にある既存の木製コンビネーション 1 基を更新する。					
・智恵子の杜公園内にある既存のコンビネーション遊具 1 基、スプリング遊具 1 基を更新する。					
・日涉公園内にある既存のブランコ 1 基、回旋塔 1 基、チェーンネット 1 基、複合遊具 1 基、スプリング遊具 1 基、ロープウェイ 1 基を更新する。					
※二本松市復興計画 施策の柱 1 安全・安心のまちづくり					
施策 2 (1) 放射線からの健康管理対策					
取り組み事項 学校施設等遊具の交換					
※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください					
人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係					
原子力災害前後で市の人口の 1. 1%にあたる 6 1 8 人が市外に避難した結果、児童生徒数に影響を及ぼしている。また、小売店の売り上げ等、地域経済に影響が生じている。更には農産物の生産意欲の低下等、地域の産業復興の妨げとなっている。					
平成 2 5 年 1 月 1 日現在現住人口 5 7, 3 9 4 人 (福島県現住人口調査月報)					
平成 2 4 年 1 0 月 1 日現在避難者数 6 1 8 人 (全国避難者情報システム)					
平成 2 2 年国勢調査結果人口 5 9, 8 7 1 人					
○子どもたちが十分に運動し、体力と運動能力を養う機会を確保することにより寄与するか					
子供たちが特に影響を受けやすいとされる放射線による健康への影響の不安から、子供たちを守ろうと外出を控えさせる傾向にあり、ストレスや運動不足による食欲不振、不眠、肥満が懸念されている。					
平成 2 4 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果では、福島県は全国平均を上回った種目がなく、体力・運動能力が低下していることが指摘されているが、更に二本松市内小中学生の体力テスト結果によると、学年別・男女別・種目別の項目で、県平均を上回る項目 2 7 に対し、下回る項目 5 3 と、下回る項目が多い状況となっており、特に市内の小中学生の体力・運動能力が低下している。					
また、学校保健統計によれば二本松市内の小学校では肥満傾向の児童の割合が H22 は 10.45%、H23 は 11.21%、H24 は 12.40%と原子力発電所事故以降確実に増えており、子どもたちの肥満傾向が高くなって					

きている状況にある。

原子力発電所事故後、外出の制限が行われ、学校においても屋外での活動が制限され、運動会も屋内開催にするなど、子ども達の運動する機会が大きく奪われた。現在では、学校の除染が終了し、屋外での運動機会も少しずつ確保されてきているが、放射線による健康への影響の不安から、公園の屋外での遊びは敬遠される傾向がある。

この様なことから、公園の除染と遊具の更新を行うことにより、子供たちにとって魅力的な公園として整備し、子供たちが安心して遊び、運動できる機会を提供し、子供たちの体力と運動能力を養い、子供たちが健康で健やかに成長する場を確保する。公園遊具については既存施設の更新であり、現在の維持管理体制により管理を続けることが十分可能である。

#### ○住民による活用の促進の配慮事項

今回遊具の更新を行う公園は、各地域の中で利用頻度も高く、一定の規模の広さがあり、より多くの子ども達が利用できる公園を選定したもの。

霞ヶ城公園は、旧二本松市の北側の市街地に位置し、幹線道路である県道二本松・安達線沿いであり、アクセスがよい。また、駐車場も十分確保されており、利用しやすい条件が整っている。更にこの公園は、市民のみならず家族連れの旅行者の子ども利用も見込まれる。

若宮公園は、旧二本松市の中心市街地の南側に位置し、幹線道路である県道須賀川・二本松線に近く、JR二本松駅からも歩いて行ける距離でありアクセスがよい場所にあり、市街地であるため、子ども達が利用しやすい条件と言える。

鏡ヶ池公園は、市の東側、岳温泉街に位置し、幹線道路である国道459号線に近くアクセスがよい。また、岳温泉は多くの市民が休養、レクリエーションに訪れる憩いの場であるとともに、市民のみならず家族連れの旅行者の子ども利用も見込まれる。

智恵子の杜公園は、旧安達町の南に位置し、幹線道路である県道二本松・安達線に近くアクセスがよい。また、この公園は智恵子の生家・智恵子記念館に近いことから、市民のみならず家族連れの旅行者の子ども利用も見込まれる。

日涉公園は、旧岩代町の中心地域（位置的には西側）に位置し、幹線道路である国道459号線に近く、県道本宮・岩代線沿いにありアクセスがよい。また、住宅地であるため、町内の子ども達や高齢者等の集まりやすい場所でもある。

安達ヶ原ふるさと村公園は、二本松市のほぼ中心に位置し、幹線道路である国道四号線に近くアクセスがよい。また、同公園内には武家屋敷、農村生活館、和紙の家など伝統的生活文化を実感できる施設を有していて、市民、旅行者等の憩いの場となっている。さらに、屋内遊び場「げんきキッズパークにほんまつ」があり、屋内・屋外一体的な遊び場として利用しやすい公園でもあり、同公園を訪れる家族連れの旅行者の子ども利用も見込まれる。

#### ○運動の効果を向上させるための取組

市の広報やホームページ、教育委員会・学校・幼稚園等を通して各公園の遊具の更新を広く周知するとともに、利用者の意見を寄せていただくこととする。また、安達ヶ原ふるさと村公園については、施設利用者のアンケート等を実施する。

特に安達ヶ原ふるさと村公園については、施設職員や屋内遊び場の職員等が、子ども達に安全な遊具の使用や多様な遊びの提供を行い、イベントなども行いながら子ども達に魅力ある公園として運営を行う予定である。（イベントは、4月に桜まつり、5月に子どもまつり、8月に夏祭り、11月に福幸祭を実施）

安達ヶ原ふるさと村公園の屋内遊び場は月平均約7,800人の利用があるが、屋内遊び場は利用時間を入れ替え制としているため、屋外遊び場は、その時間待ちする子ども達の利用となっていて、月千人程度である。遊具を更新しPR活動をすることにより月平均2千人程度の利用があると見込まれる。

※効果促進事業である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	
基幹事業との関連性	